

資料2

平成29年度

取組みの実績・評価

鶴見区役所

こども教育部会

- 所管する経営課題

経営課題3 次世代育成に向けたまちづくり

経営課題3

次世代育成に向けたまちづくり



3-1 安心して子育てできる環境づくり

子育て支援の充実

計画

関係機関等と連携し、子育て層の交流の場の設定、児童虐待防止の早期発見と防止のための啓発活動、待機児童の解消などに向け、状況に応じた適切な支援、相談、情報提供等、子育て支援に取り組む。

目標

子育てについて「楽しいと思うことの方が多い」と感じる保護者の割合70%以上 ⇒ 72.3%

実績・評価

保健福祉センターでは、子育て支援室を中心に乳幼児期の子どもを抱える子育て家庭等に対し、状況に応じた適切な支援、相談、情報提供を実施し、子育てに対する負担感や不安感の軽減に向け、取り組みを進めている。

・「愛Loveこどもフェスタ」の開催

→保護者のつながりづくりや子育て支援関連施設等の情報提供を目的に実施している。アンケートでは93.2%の方が来年以降も参加したいと回答しており、満足度は高いと思われる。

30年度は、子育てサロン等の活動内容を情報提供することにより、保護者同士が気軽に交流できるよう声掛け等に努めた。アンケートでは、95%の方に、「子育てに役立つ情報が得られた」との回答があった。

・「つるみっ子ルーム」の利用

→1年間の登録数は約570件あり、多くの親子にご利用いただいている。親子参加型講習会の開催や毎月の「お楽しみ会」等を通して、子どもとの関わりの持ち方等をお伝えしている。

30年度は、保護者が子育てに関する相談を気軽に行えるように、保育士が定期的に「つるみっ子ルーム」で相談業務を実施している。

実績・評価

・児童虐待防止啓発活動

→地域の方と連携して、区内の病院や店舗、郵便局などに、児童虐待防止啓発ポスター等を掲出してもらうなど、児童虐待の早期発見と防止に向け、啓発活動を実施した。

30年度も引き続き、地域の方と連携して、啓発活動を実施していく。

・児童虐待防止のための学習会・講演会等

→児童虐待に陥る前の、子育てに負担感や不安感を持つ保護者が前向きに子育てに取り組めるような、子育てスキルの向上を目的とした講演会を実施した。

30年度は、発達障がい児への関わり方に関する講演会の開催を予定している。

・関係局との保育ニーズ検討会議

→30年4月に、市営住宅を活用した施設を含め、小規模保育施設が3園開設したが、区内の保育ニーズは依然として高く、引き続き、関係局と連携して、受入枠の拡大に努めていく。

・幼稚園・保育所等情報フェア

→昨年度、約500世帯の方々にご来場いただき、区民の関心が高いことが確認できた。

30年度は、より満足度の高いものとなるよう、実施時間やレイアウトを一部見直し、各施設と保護者がうまくマッチングできるような場を提供していく。



愛Loveこどもフェスタ

5月25日開催

参加者850人



**幼稚園・保育所等情報
フェア**

9月2日開催

参加者1,200人



つるみっ子ルーム

年間延べ利用者数

5,292人



親子参加型の講習会

3月1日、8日、15日開催

参加者各15組

30年度の 取組み

- ・【**継続**】「愛Loveこどもフェスタ」の開催 1回
- ・【**継続**】「つるみっ子ルーム」の運営
- ・【**継続**】子育て講演会の開催 1回
- ・【**継続**】子育てサロン等での保健師、保育士による育児相談の実施
- ・【**新規**】子育てマップの作成 1回
- ・【**継続**】幼稚園・保育所等情報フェアの開催 1回
- ・【**継続**】フェイスブック、ツイッターを活用した子育て情報の発信

31年度の 方向性

経営課題3

次世代育成に向けたまちづくり



3-2 教育支援

教育支援の充実

計画

学校、地域、保護者の教育に対するニーズに沿った学校支援を行う。

目標

区役所からの支援により教育環境が向上したと思う学校の割合70%以上 ⇒ 100%

実績・評価

▪ 教育行政連絡会の開催、学校協議会、校長会・教頭会への参画

→ 学校、地域、保護者の教育に対する課題や要望を聞き取る機会として開催、参画した。校長経営戦略支援予算の柔軟な活用や発達障がいサポート事業の充実、夢・未来創造事業の事業展開等を議論し改善につなげた。H30年度はさらに活発な意見交換や情報共有の場となるような工夫が必要である。

▪ 校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校の側面的支援

→ 学力向上や安心して学校生活を送ることができるよう、地域や学校ニーズに即した側面的な支援を行った。H30年度は、これまですべての小・中学校が同じ内容の取組みであったものを、さらに各校が使い途を選択し柔軟に活用できるよう支援している。今後も引き続き校長会や教頭会等で課題や要望を聞き取りながら進めていく必要がある。

【小学校】教育活動サポート、英語の講師派遣、英語教材購入費の内訳を各校で決定

【中学校】教育活動サポート、ICT機器(デジタル教科書)購入費の内訳を各校で決定

▪ 発達障がいサポーターを活用した小・中学校支援の拡充

→ H29年度からサポーターの稼働時間(予算)を増やし、行動面や学習面、発達面で支援を必要とする児童生徒が安心して学校生活を送ることができるような支援を行っており、今後も引き続き実施していく。

H28年度 稼働時間2,076時間(サポーター25人)

H29年度 稼働時間3,922時間(サポーター42人)

H30年度(予算) 稼働時間3,948時間(サポーター43人)

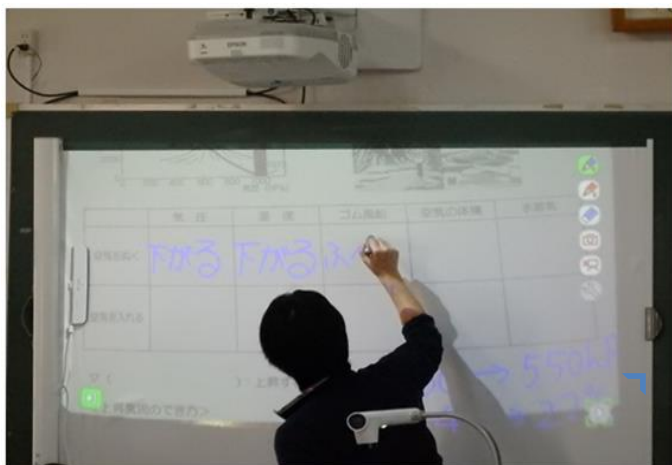
校長経営戦略支援予算 【590万円】+【142万円】

平成28年度から、区長(区担当教育次長)が教育行政にかかる事業を企画・立案して執行できる「校長経営戦略支援予算(区担当教育次長執行枠)」が設けられ、学校のニーズを踏まえた施策を各区で実施することとなった。

中学校
個別指導つるみ塾 (民間事業者を活用した課外学習事業) 1,415千円
門扉改造／電子錠設置／インターホン設置 事業者選定委員報償金

校長経営戦略支援予算を活用した支援

小学校	中学校
教育活動サポート (学校生活のサポート) 2,210千円	教育活動サポート (学校生活のサポート) 1,072千円
英語の講師派遣 1,080千円	
英語教材購入 (英語絵本・CD・DVD) 600千円	ICT機器購入 (ユニット型電子黒板) 673千円
漢字検定 264千円	



校長経営戦略支援予算を活用した支援
ICT機器購入(ユニット型電子黒板)



校長経営戦略支援予算を活用した支援
英語の講師派遣

30年度の 取組み

- ・【**継続**】教育行政連絡会の開催、学校協議会、校長会・教頭会への参画
- ・【**継続**】学校カルテ(小・中学校)の作成及び課題解決に向けた取組み
- ・【**継続**】校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校の支援
- ・【**継続**】発達障がいサポーターを活用した小・中学校の支援

31年度の 方向性

学校と社会を結ぶ

計画

区内企業・経営者・スポーツ選手の方々のもつ知識や経験談を、区内小中高校生に伝えてもらうためマッチングを行う。

目標

青少年「夢・未来」講座を通じて、興味、関心が高まったと回答した参加者の割合80%以上
⇒ 93.0%

実績・評価

- 青少年「夢・未来」講座の開催

11校(延べ103回)

→ 新たな協力企業等を開拓し、より多くの児童・生徒が体験できるように取り組んでいる。

【H29年度新たな企業等】

大阪ガス(株)(環境学習)

鶴見消防署(防火・防災学習)

汎愛高校(ダンス教室)

【H30年度新たな企業等】

リーフラス(株)(運動学習(走り方・サッカー・バスケットボール・水泳))

大阪府ダブルダッチ協会(大縄跳び)



ミズノ(株)
走り方教室



牛乳石鹼共進社(株)
手洗い教室



J:COM
報道番組



汎愛高校
ダンス教室

30年度の 取組み

- ・【**継続**】青少年「夢・未来」講座

31年度の 方向性

経営課題3

次世代育成に向けたまちづくり



3-3 子ども・青少年の健全育成

地域と連携した青少年の健全育成の取組み

計画

歌やダンス等の活動をしている区内高校生や青少年グループに、日頃の活動成果を発表する機会を提供するとともに、関係機関と連携した非行防止啓発活動等を実施するなど、青少年健全育成の取組みを推進する。

目標

各事業が青少年健全育成としての有効な取組になっていると回答した参加者の割合65%
以上 ⇒ 87.5%

実績・評価

- 高校軽音ライブクリーンプロジェクト

→ 会場や参加校を増やして実施(3会場⇒4会場)

鶴見緑地での演奏や清掃活動により、一定目標達成には繋がったが、参加者が増え、鶴見区以外の青少年の割合が増えることにより、区役所が実施する意義や目的、イベントのあり方等の検討や見直しが必要である。

【4月30日 鶴見緑地(噴水前・展望塔前・花栈敷・政府苑跡)4会場】

H28年度 18校36組 ⇒H29年度 24校48組 ⇒H30年度 27校56組の参加 (出演者約850人・来場者約1,200人)

- 青少年健全育成鶴見区民大会

→ 地域、家庭、学校が連携して青少年健全育成に取り組んでいけるよう、各種団体等への意識啓発や研修的な役割で実施しているが、今後も内容を検討しながら実施していく必要がある。

- 青少年カーニバル (大阪メチャハッピー祭 鶴見会場 ・ 鶴見区民カーニバル)

→ 各種団体(青少年指導員・青少年福祉委員・生涯学習推進員・PTA・子ども会)とともに実施。

当日、同会場で実施されている大阪メチャハッピー祭は、大阪府下の踊り子隊が鶴見緑地に集まってくるため、その集客力を上手に活用しながら区民カーニバルを区内の青少年の活動発表の場として実施しているが、シニア層の出場が多く、募集要項や募集方法の見直し等、青少年の活動発表の場となるような検討が必要である。



高校軽音ライブクリーンプロジェクト

5月7日開催(鶴見緑地)

来場者 約1,200人



青少年健全育成鶴見区民大会

7月9日開催(鶴見区民センター)

参加者 約700人



こども110番の家

登録件数 918件



青少年カーニバル

10月9日開催(鶴見緑地)

来場者 約1,200人

30年度の 取組み

- ・【継続】高校軽音ラブクリーンプロジェクト
- ・【継続】青少年健全育成鶴見区民大会
- ・【継続】青少年カーニバル

31年度の 方向性

【経営課題全体としての評価総括(自己評価)】

- 安心して子育てできる環境づくりのためには、地域・関係機関との連携を推進する必要がある。
- 児童虐待防止に向け、関係機関と連携を図り対応するとともに、啓発活動を推進する必要がある。
- 保育ニーズの高まりに対しては、関係局と連携し、保育環境の充実に努める必要がある。
- こどもたちが安心して学校生活を送れるよう、地域や学校ニーズに即した支援を行っていく必要がある。
- 主体的に生涯学習に取り組む区民を増やすため、さまざまな学習機会の提供やまなびの場の周知を行う必要がある。